

Suma Tomogaoka 通信

兵庫県立須磨友が丘高等学校 総合学科推進部
令和3年度 第2号 7/16

教育実習生に聞く

5月31日から3週間（2週間の実習生も）の実習を終えました。学習活動だけでなく、コロナ禍での文化祭への取り組みに参加するなど貴重な経験が出来たことと思います。実習生の皆さんに高校時代の様子を伺いました。総合学科高校での学びが今の皆さんにどのような影響を及ぼし、何を得たのかを知る貴重なコメントを貰いました。

■ 須磨友が丘での「総合学科」としての学びの中で、何が興味深く、意欲を持って取り組みましたか？

- ・「産業社会と人間」で自分の将来についてしっかり考えることができた。
- ・「スポーツⅠ・Ⅱ」、「スポーツ概論」など体育科目を選択した事でスポーツを知る機会となり、とても意欲的に取り組んだ。
- ・課題研究で、本を読んで自分が気になったことを調べ、考えることに意欲を持って取り組んだ。
- ・大学は芸術系ではなかったですが、2年の「課題研究」と3年の「絵画」では自分が興味を持ったことを追求できた。特に飛び出す絵本に興味を持ち、課題研究では自ら制作したことが印象に残っている。
- ・スポーツの授業やマッサージ法などの専門的な授業は保健体育科の教師になるという夢につながっている。
- ・普通科には無いような、表現の仕方を学ぶ授業や、英検取得を目指す授業があったので、自分の得意なこと好きなことに熱心に取り組めた。

■ 須磨友が丘高校で経験したことが、大学に進んで大いに生かされたと感じたことはありましたか？

- ・パソコンのスキルは圧倒的に他の学生よりも長けていたと思う。
- ・大学の時間割を組む際に、「選択すること」に慣れていたので、スムーズに自分の希望に沿って組むことができた。
- ・選択した多くの科目が大学の授業に繋がっていることもあり、とても生かされている感じがした。
- ・総合学科特有の選択科目の多さや部活動の経験が「何にでも挑戦できる環境」であったため、大学でも物怖じせず挑戦する姿勢が身につけていたと感じている。
- ・課題研究で自分が調べたことや考えたことを論文としてまとめた経験が、大学でレポートを描くときや卒業論文を書く時に生かされていると感じている。
- ・総合学科のカリキュラムや課題研究の取り組みは大学のカリキュラムやシステムと似た点が多く、授業や研究をスムーズに行うための手助けとなった。
- ・高校の選択科目の歴史に関する授業で興味を持ったことが、今の大学での研究に繋がっている。興味を持つ最初のきっかけが須磨友が丘での学びだった。

■ 須磨友が丘の卒業生として、あなたが誇れることは何ですか？

- ・総合学科で色々な事に興味を持ち研究することができた。この「探究心」を養うことができる場所と言う事。
- ・自由な校風の中に社会のルールを守れる生徒が育つ事。
- ・総合学科の学びの中で物事を多面的に考えられるようになる事。
- ・学校全体が明るく、部活動も活発で先生と生徒の距離がちょうど良いと感じるところ。
- ・自分で知り、考え、行うという力を育むことができる事。



登校初日に回答・協力していただきました。教育実習生のみなさん、ありがとうございました。

地域と繋がる

美術部・書道部作品展

— 妙法寺 リファール横尾内 コープ横尾 —



コープ横尾店から、荷物を詰めるサッカー台の周りの空きスペースを展示用に活用したいということで、第1回目の取り組みとして、本校の美術部・書道部に声がかかりました。今後は地域小・中学校や幼・保育園、またサークルなどの発表展示で活用して欲しいとのことでした。7月31日まで展示しています。



1年次 「産業社会と人間」 講演会（1学期第2弾）

【 ハテナソンワークショップ 】

4月30日（金）は、京都産業大学から佐藤賢一教授に来ていただき、ハテナソンのワークショップを行いました。

佐藤先生は大学では産業生命学部で研究をされていますが、もう1つの研究テーマとして「問いづくり」に取り組まれています。「ハテナソン」（＝問いを作り続けるマラソンの意の造語）を通して、どのような質問をすると内容が深まるか、質問の種類や精選の方法を体験しました。

質問の質問返し、佐藤先生の生命科学分野の動画を見て作る質問から、立場を変えての質問、質問を共有し、そこからどんな返答を得られるかを想定、逆に返答の想定から質問を考えるなど、頭をよくめぐる2時間でした。生徒たちにとっては今までの「問い」のイメージが変わる機会だったようです。

産社での「研究」や2年次以降の「課題研究」では、研究が深まるための問いを立てることが重要です。この時間だけでなく、普段の授業や生活の中でも問いを立てる習慣をつけていきたいです。

生徒の感想より

「授業だから」と苦手意識を持ち、最後の仕上げであるパワーポイントに一番時間と労力を費やしてきましたが、今回の講演ですべて間違っていることに気がつきました。プレゼンというのは誰かに応援してもらいたい気持ちを持ち、上手にかっこよく考えず、伝える気持ちが大切と学びました。

まずプレゼンを行う際、最も重視することは情報の収集です。元ネタをしっかり自分で理解していないと本番で頭が真っ白という現象に陥ってしまいます。苦手意識は発表よりも事前準備によって芽生えたのではないかと考えました。

【 プレゼンテーションの重要性 】

6月4日（金）には、京都芸術大学から吉田大作先生に来ていただき、「未来を創造するプレゼンテーションの重要性」と題した講演をしていただきました。

「プレゼンテーションはプレゼント」のフレーズは吉田先生の話聞いた人ならすぐに思いつくキーワードです。その内容も一緒に思い出せる印象的なお話やプレゼンテーションは準備段階が一番重要であること、研究活動におけるプレゼンテーションの位置づけなど分かりやすく話していただきました。研究活動に先立って吉田先生の講演を聴くことができたので、7月に実施される職場訪問も準備を整えて、研究の目的を意識しながら臨めることと思います。職場訪問の成果発表で何を「プレゼンテーション」するかが楽しみです。

生徒の感想より

私はこの講演を聞き、良いプレゼンテーションをするために必要なことが学べた。～中略～ 情報収集が出来る場では自分にしか得られないと思う情報や、人に届けたいと思う情報を、質問したりして積極的に引き出す必要があると分かった。私はこの講演で学んだことは、今までの講演で学んだことと併せて、今後のプレゼンテーションに活かしたい。情報を複数人の視点で共有することや、情報を引き出すために問いを立て続けることなど、他の講演で学んだことも活かせる点が多いと分かったからだ。また、プレゼンテーションの能力は社会に出てから役に立つため、未来の自分に活かす意識を持って積極的に発表に取り組みたい。

3年生 課題研究各ゼミ内発表

2年時から各自が取り組んだ「課題研究論文」、いよいよ次の段階に進み、論文を基にしたプレゼンテーションのためのパワーポイントが完成し、各ゼミ内での発表が行われました。そして、各ゼミから代表者が選出され、7月12日、16日に全体発表が開催されます。全体発表の様子は次回号で報告予定です。

